

The best relationship

第二学年通信 No 72

～最高の仲間たち～



2018,11,22.

20日(火)

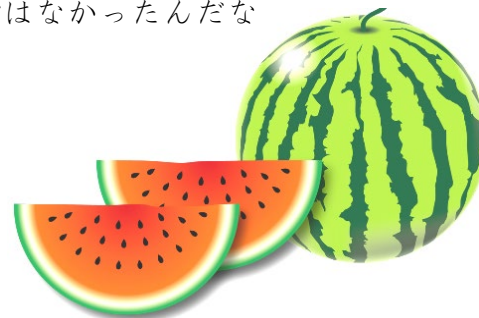
いのちの学習より No 1

【先生の話をお聴いて】

- ・まず印象に残ったことは、こどもを産むには2つの命がかかっているということです。すごく痛いのを耐えて耐えて、親(産んでいる人)が亡くなることもあるんだなあと思いました。親も、そうなる可能性が0%とは言いきれないんだなあと思うと、自分のお母さんも自分も乗り越えたから今がある。そう思えば、今生きていること、産まれてこれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、当たり前でないと思いました。



- ・今日の授業は何か新鮮でした。命の勉強は、小学校の時から何回もしてきたけど、先生のような状況の人が話をした方が現実味があって、頭に入りやすかったです。自分は、二人とも親がそろっていて、おじいちゃん、おばあちゃんも出産が原因で亡くなったわけでもなく、弟がいて・・・。そんな当たり前のことは、決して当たり前ではなかったんだなと思いました。先生は“選択”についてもお話をされていました。確かに、自分にとって後悔のない道を選ぶのは大切だなと思いました。産まれてきたことに感謝しようと思います。



『沖縄』を知ろう No 21

沖縄県民から慕われる兵庫県の島田 叡さん(3)

《島田 叡(しまだあきら)さんのお話 I》 No 15

昭和 20(1945)年 1 月、大阪府知事から呼び出された島田は、『沖縄県知事になってほしい』と要請されました。

《島田 叡(しまだあきら)さんのお話 II》

島田は即答しました、

「私が行きます」

府知事は「君、家族もあるのだから、三日ほどよく考え、相談した上で返事

しても良いんだぞ。断っても良いんだぞ」と言いました。しかし、

島田は 「いや、これは妻子に相談することじゃありません。私が決めることです」と答えたといいます。

自宅に帰って、妻に

「朝から何か良いお話でしたの？」と聞かれた

島田は 「沖縄県知事の内命やった。もちろん引き受けて来たわ」

と落ち着き払って答えました。

驚いた妻の

「なぜ、あなたが！？」との問いに、島田はこう言いました。

「誰かが、どうしても行かなならんとなれば、言われた俺が断るわけにはいかんやないか。俺が断ったら誰かが行かなならん。俺は行くのは嫌やから、誰か行けとは言えん」

「これが若い者なら、赤紙(召集令状)一枚で否応(いやおう)なしにどこへでも行かなな란のや。俺が断れるからというので断ったら、俺は卑怯者として外も歩けんようになる」

のちに島田はこうも言っています。

「牛島さんから赴任を望まれた。男として名指しされて、断ることはできへんやないか」

こうして、1945 年 1 月 31 日、島田叡は沖縄県知事として単身、赴任しました。

島田の荷物はトランク 2 つだけ。中には衣服と茶道具、

愛読書の『葉隠』、『南洲翁遺訓』、薬。

そして、ピストル 2 丁とポケットに青酸カリが入っていました。

* 『葉隠』 (はがくれ) [肥前国佐賀藩の武士心得]

・ 自己中心の利害に基づく判断からの行動は、誤った行動となる。
最良の行動は、自身が死んだ身であるという心境からの判断である。

* 『南洲翁遺訓』 (なんしゅうおういくん)

[西郷隆盛が残した遺訓集で 41 条と追加の 2 条からなる]

Q 2 : 島田知事の持ち物から、何がわかりますか？

